

北海道社会学会ニュース

H. S. A. NEWSLETTER

発行：北海道社会学会事務局

〒064-0808 札幌市中央区南8条西2丁目 市民活動プラザ星園201
北海道NPOサポートセンター気付FAX:011-200-0974 Email:socio@npohokkaido.org 担当 菅原
郵便振替口座 02760-3-3085

HOKKAIDO SOCIOLOGICAL ASSOCIATION

c/o Hokkaido NPO Support Center,

Shimin Katsudo Plaza Seien 201, Minami8 Nishi2, Chuou-ku, Sapporo

064-0808 JAPAN URL <http://www.hsa-sociology.org/>

編集責任者：野崎剛毅（庶務理事） 札幌国際大学短期大学部 y-nozaki@ts.siu.ac.jp

〒004-8602 札幌市清田区清田4条1丁目4番1号 TEL 011-881-8844 (2809)

会長就任のご挨拶

平沢 和司

最初から私事にわたって恐縮ですが、私が本学会に入会したのは1986年、はじめて発表したのは1989年6月10日、釧路公立大学で開催された第37回大会です。手許にある入会以降すべての『北海道社会学会ニュース』をひっくり返して確認しました。爾来、30年余。大会受付を見よう見まねで手伝った院生時代、当時は北大文学部にあった事務局で学会業務に忙殺された助手時代、編集・研究活動などすべての委員を経験した准教授時代、長らく育てていただいたと感謝するとともに、本学会のためにかなりの時間を使ってきたというのが偽らざる実感です。そしてこの度どういう偶然か会長に選出されました。

この間、毎年学会大会には参加してきましたが、私はかならずしも熱心な会員ではありませんでした。今日の社会学の研究者コミュニティは分野別に構成されており、口頭・論文発表は全国規模の専門学会や研究会であるもの、との思いが強いからです。

ただし、近年は少し考えが変わってきました。自らの専門分野や方法論以外でどのような議論がなされているのか、聞きたくなってきたのです。自分の視野の狭さによく気づいたのかもしれない。それには多くの分野の研究者が揃っていて、かつ大会で同時進行する部会が多くても2つ程度の本学会が最適です。同じ道内にいながらふだんは会う機会のない研究者が問題意識を共有していることに気づくなど、意外な発見があって素直に楽しいと思えるようになりました。

もっともそれは私の個人的な感想ですが、他の教員の方々にとっても、研究・教育の水準を維持向上させるための情報交換の場として、本学会を利用していただけるのではないのでしょうか。多くの大学で社会学のポストが減少する今日、その役割はむしろ高まっているように思えます。

さらにもうひとつ地方学会の重要な役割として、若手研究者の育成があります。大学院生のみなさんは、はじめての学会発表や論文投稿の場として、またほかの大学の先生がたとえ会う場として、ぜひ本学会を有効に活用してください。実際には私の勤務する大学の院生がお世話になることが多いかと思えます。他大学の先生がたから助言をいただければ幸いです。

最後に、会員にとっての本学会の価値を高めるために、学会大会の企画、機関誌の特集・査読、学会運営のあり方などについて、忌憚のないご意見を各委員や役員にお寄せください。お願いごとばかりですが、2年間どうかよろしく願いいたします。

第65回北海道社会学会大会について

木戸 功（研究活動委員長）

第65回北海道社会学会大会は2017年6月10日（土）に北海道情報大学にて開催されました。小内純子会長につづき開催校の澤井秀学長からのご挨拶を頂戴し開会となりました。一般報告は前年度よりも多く10本の申し込みがあり、研究活動委員会ではプログラム作成に頭を悩ませましたが、結果として3つの部会を設けました。決して規模が大きいわけではない学会大会ですので、複数の部会が同時に進行しない形式が望ましいと考えましたが、昨年同様に午後の部会については2つを同時に進行させることになりました。いずれの部会においても、活発なやりとりがなされ、有意義であったと聞いております。また、つづくシンポジウムでは「社会調査教育と社会学の現在」というテーマを設定し、内田司会員（札幌学院大学）、西浦功会員・西脇裕之会員（札幌大谷大学）、中田知生会員（北星学園大学）、平沢和司会員（北海道大学）より、各大学でのとりくみについてご報告をいただきました。また酒井恵真会員（札幌学院大学名誉教授）と濱田国佑会員（駒

沢大学)には討論者としてご登壇いただき丁寧なコメントをいただきました。現在の社会調査教育が社会学にとっても意義を探るということをおねらいとして企画させていただきました。限られた時間の中で、議論が決して深まったとは言えないかもしれませんが、本学会会員が所属する各大学での社会調査教育のとりくみの現状とその課題についてフロアも含めて共有できたように思います。

本大会への参加者は55名(うち一般会員35名、学生会員9名、大学院生の非会員11名)と聞いております。おおむね例年通りの規模での開催となりました。開催校の加藤喜久子会員とお手伝いいただいたスタッフのみなさまには会場設営を含めてご尽力いただきました。おかげさまでたいへん有意義な大会を開催することができました。心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。また、大会終了後には野幌にあるイタリアン・レストラン「ラ・フォルケッタ」からのケータリングによる懇親会を開催していただきました。こちらにも37名の会員と4名の北海道情報大学の学生スタッフのみなさんのご参加により多に盛り上がりました。

本大会の運営をもちまして、今期の研究活動委員会の任期が無事に終了いたしました。会員の皆さまのおかげで、また委員の皆さま、会長をはじめとした理事の皆さまのおかげで委員長という任をなんとか果たし終えることができましたことにつきましても、あらためてお礼を申し上げます。

第65回大会シンポジウム

「社会調査教育と社会学の現在」感想

上山 浩次郎(北海道大学)

このシンポジウムでは、道内の各大学で行われている社会調査教育の現状(特に調査実習の動向)の報告と、それを受けた討論者やフロアとの議論が行われました。参加することを通して、社会調査教育の意義とその実践の難しさ、社会調査(教育)と社会学(教育)の関係性について、改めて考える契機を得ました。

内田司先生(札幌学院大学)のご報告「学びから逃走する学生とフィールドワークを通して向き合う」では、内田先生が実践されている「社会体験的フィールドワーク」のご紹介がありました。そこで重視されているのは「学びの動機づけと意欲の喚起」や「就職活動支援的な性格」です。そうしたフィールドワークを通じて、「(記憶違いかもしれませんが…)「学生が元気になる」と述べら

れていたことが印象的でした。

西浦功・西脇裕之両先生(札幌大谷大学)のご報告「社会調査実務士と社会調査教育」では、社会調査実務士に関する教育課程の概要と、授業展開例としての「エラボレーションを用いて解釈を深めるグループワーク」等のご紹介がありました。社会調査教育を通じて、「(自分たちの周囲に存在する)複数の視点に気づかせること」を強調されていた点はともに示唆深いと思いました。

中田知生先生(北星学園大学)のご報告「他領域の狭間のなかでの社会調査教育」では、学際的学科での実践例についてご紹介がありました。そうした学科で学ぶ学生だからこそ持つ社会問題への関心を社会調査教育の実践の際の前提にするというお話からは多くの工夫がなされていることが感じられました。また、社会学の社会調査の知識が他領域に十分に影響を与えているとは言い難いのではないか、という問題提起には目を開かされました。

平沢和司先生(北海道大学)のご報告「社会調査教育では何が重要かー北大文学部の現況を踏まえてー」では、社会調査協会の指定科目等を準拠枠としながら、北海道大学文学部におけるカリキュラムの現状について詳細なご紹介がありました。「学生は社会学と社会調査を別物と考える傾向」があることのご指摘、社会をどう認識するかという問いと社会調査が分かちがたく結びついていることを伝えることの重要性のご指摘は、大きな意味を持つと思いました。

以上の報告に対して、討論者である酒井恵真先生(札幌学院大学名誉教授)、濱田国佑先生(駒沢大学)やフロアを含めた質疑応答が活発になされました。議論を通じて、社会調査教育の実践例を共有することの有意義さや、社会調査教育を通して他者(社会)の存在を気づかせることの重要性の確認がなされたと思います。拙いながらも社会調査教育を行う身として、あらためて社会調査教育や社会学について考えることができました。

最後に、報告者や討論者の先生はもちろん、こうしたシンポジウムを企画して下さった司会の木戸功先生(札幌学院大学)、高田洋先生(札幌学院大学)にお礼を申し上げます。

第65回北海道社会学会総会について

(第65回北海道社会学会総会議事抄録)

日時:2017年6月10日(土)16:50~17:25

会場:北海道情報大学 校舎棟1号館201教室

議長:笹谷春美会員

報告

1. 庶務報告（大國庶務理事）
 - 1) 会員異動（2016年6月～2017年5月）
新入会員2名・退会会員4名の計2名減で、6月10日現在の会員数は129名。
 - 2) 学会研究奨励金
応募者がなかったため、該当者なし。
 - 3) 2016年度理事会開催
2016年11月、2017年3月、6月の計3回およびメールによる持ち回り理事会を複数回開催した。
 - 4) 学会ニュースの発行
計4号（No.108～111）発行した。
2. 役員選挙結果について（内田選挙管理委員長）
2017年5月10日に開票作業を行い、新役員が決定した。
3. 新理事会・委員会について（平沢新会長）
役割分担
会長：平沢和司
編集委員会：田島忠篤（委員長）、今井順、上山浩次郎*、人見泰弘*、水川喜文*
研究活動委員会：高田洋（委員長）、小内透、梶井祥子、未定2名
庶務担当理事：野崎剛毅
会計担当理事：品川ひろみ
監事：内田司*、加藤喜久子*
（敬称略、*は理事外、新役員の任期は大会の翌日より2年後の大会当日まで）
4. 次回大会の開催校について（角会員）
北海道教育大学旭川校（旭川市）に決まったことが報告された。開催日は2018年6月9日（土）である。

議題

1. 2016年度決算報告（中田会計担当理事）
提案（別紙1）のとおり承認された。
2. 2017年度予算案（中田会計担当理事）
提案（別紙2）のとおり承認された。

第3回理事会（新旧合同理事会）報告

日時：2017年6月10日（土）12:00～12:40
会場：北海道情報大学大学本部棟2階会議室
出席者：小内純子会長、西浦・木戸・中田・飯田・角・大國の各理事、平沢新会長（理事）、今井・高田・梶井・野崎・小内透・田島・品川の新理事。

報告

上記の総会における議題と同じ。

編集委員会より（田島編集委員長）

『現代社会学研究』第31巻（2018年6月発行予

定）の原稿募集について

① 投稿原稿の募集

『現代社会学研究』第31巻の投稿原稿を募集します。投稿を希望される方は、学会ホームページから「投稿申込書」をダウンロードし、必要事項を記入の上、学会事務局（socio@npohokkaido.org）に宛ててメールの添付書類として送信してください。その際の添付ファイル名は「投稿申込〇〇.doc」（〇〇には申込者の氏名を入れる）としてください。申込の締切は、8月31日（木）まで（同日必着）とします。申込者には数日のうちに事務局から申込書受理のメールが返信されますので確認してください。申込の時点で2017年度までの会費が完納されていないと申込は受理されませんのでご注意ください。審査用原稿は「執筆要項」の指定に基づくA4サイズ16枚以内のPDFファイルとして作成し、10月31日（火）必着で学会事務局宛てでメールに添付してお送りください（従来、投稿原稿3部を郵送していただいていたこともありましたが、これは不要です）。その他の詳細については、学会ホームページに掲載されている最新の「編集・投稿規程」および「執筆要項」を熟読してください。

② 書評対象書の募集

『現代社会学研究』第31巻に書評を掲載する対象書を会員の皆様から広く募集します。自薦他薦を問いません。会員の著作（会員の単著、または会員が編著者になっているものが原則）で書評として是非取り上げて欲しいものがありましたら、その書誌情報（著者名、書名、発行年、版元名）を学会事務局（socio@npohokkaido.org）までお寄せください。自薦の場合は、書評を書いて欲しい会員名、リプライ付を希望するか否かについてお伝えください。またできれば書籍現物もお寄せください。特に指名がない場合は執筆者を編集委員会で決定いたします。当該書の発行時期は必ずしもこの一年間でなくても構いません。過去数年に刊行されたもので、書評対象とするにふさわしいと思われるものについても可とします。締切は、10月31日（火）必着です。情報を集約の上、編集委員会で検討して掲載の是非を決め、結果をご連絡いたします。

③ 書評原稿および「往来」原稿の募集

第30巻に引き続き書評原稿を募集します。必ずしも書評という形式ではなく、その書籍の内容に何らかの形で言及しながら、ある研究テーマについて展開する内容となっても構いません。また海外事情の紹介やある分野についての最新の研究動向などに触れた「往来」の原稿も募集します。

いずれも学術的な内容であることを条件とし、分量はリプライがつく場合は 6,000 字程度、つかない場合は 3,000 字程度とします。締切は 10 月 31 日（火）必着で、学会事務局（socio@npo-hokkaido.org）までメール添付でお送りください。その際の添付ファイル名は「書評投稿申込〇〇.doc」ないし「往来投稿申込〇〇.doc」（〇〇には申込者の氏名を入れる）としてください。但し投稿された原稿の取り扱いについては編集委員会にご一任ください。「往来」の投稿が少ない場合などには、編集委員会から個別にご執筆をお願いすることもあります。その折りにはどうかよろしくお願い申し上げます。

北海道社会学会研究奨励金について

北海道社会学会では社会学研究の活性化と若手の育成を目的として、2006 年より研究奨励金を交付しています。下記により奨励研究を募集いたしますので、ぜひご応募ください。

1. 募集件数：2 件（1 件 5 万円）
2. 応募資格：本会会員（若手単独が望ましい。若手とは、自分で科学研究費申請ができない地位にある大学院生や大学院修了者等を指す）
3. 条件：奨励金交付後 2 年以内の本学会大会での研究発表、および 2 年以内の『現代社会学研究』への投稿を条件とします。
4. 応募方法：まず応募用紙を庶務理事宛て e-mail でご請求ください。ついで応募用紙に下記を記入し、庶務理事まで郵送により提出し

てください。

- ①研究テーマ、②応募者（氏名・所属）・郵便番号・住所・TEL・FAX・e-mail アドレス、③研究の目的と「社会学研究」としての意味・位置づけ等（具体的に）、④研究の方法と予想される成果（具体的に）、⑤推薦会員の署名と印
5. 提出期限：2017 年 10 月 31 日（火）必着
6. 提出先・問い合わせ先：野崎剛毅（庶務理事、あて先は 1 ページ編集責任者欄参照）

会費の納入について

2017 年度会費または未納分会費について、同封の郵便振替用紙 [郵便振替口座 02760-3-3085] にてすみやかに振り込み手続きをお願いします。年会費は一般会員 6,000 円、学生・院生会員 4,000 円です。

2017 年度会費を納入されていない方には、機関誌第 30 巻（2017 年 6 月発行）をお渡しできません。5 年間滞納されると、自然退会の扱いとなります。ご注意ください。

会員異動（web 版省略）

会員情報の変更届について

住所や所属が変更になったときは、遅滞なく郵便かメールで事務局（socio@npo-hokkaido.org）までお知らせください。その際、e-mail アドレスもお忘れなくご登録ください。